

版權所有

教法  
改革

一教神學 米國

學校

真治君著

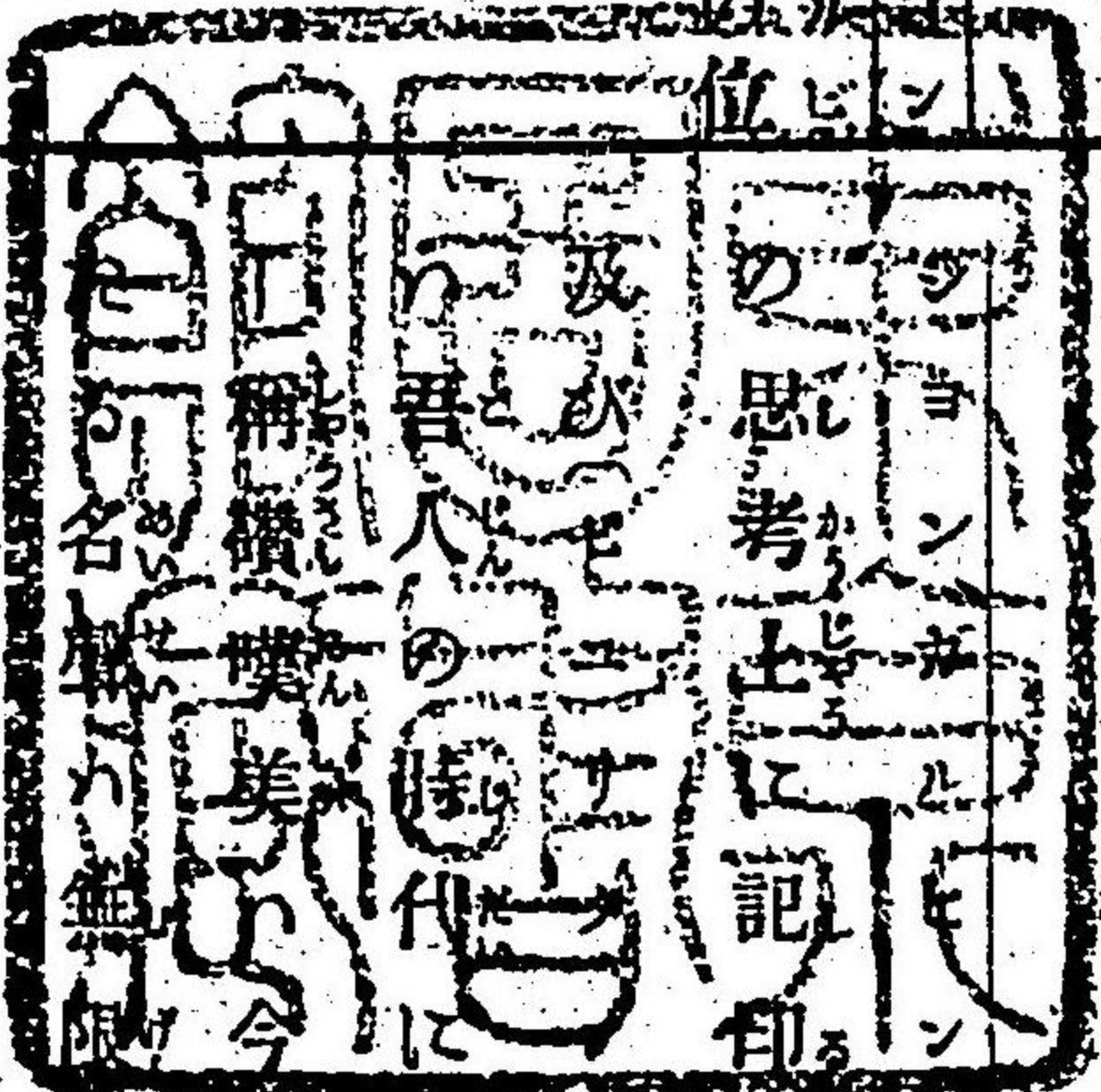
君譯

全行錄  
東京  
印行

特18  
166

№17883/22

置シガシ  
のル  
位



加流敏言行録

ハ高名なる宗教改革者にして其才幹の當時  
さられてスイツランド、ゲッチ（ヒューゲノット）

ス）と共に其教権を表し、その最大の勢力  
擴張せりと云ふべく、今より五十年前にあり

日に於ておるとなり、雖も心霊上の恩人  
なりと云ふべし、氏に嘗て英國教會に愛玩

せらるゝとなく、又其神學上の敵手に大に讒謗せられたる  
とあり、雖も批評者、歴史家の一人として、其才幹學藝及び

清潔の心を議するものあると、なり、氏が「プロテスタント」教國  
に大勢力を占し、といふ否むべからざるの實事なり、神學者と



ての實に其同主義を持ちたると又全一なる論法上の能力を有せしこと、又學校に於て智性上の總理として書生を支配せんと等に於ての聖チーガスチン、トーマス、アクイナスと并列したり而して氏の只に神學者たるのみならず亦法律家にして宗教改革者也其教會政治を設置し教會の教系を組織し禮拜式の改良を行ひしとよ於てのルuterを除外の外之に比すべきものなり其功績の神學者註解家教會政事家として非常のものなり吾人の薄弱なる體軀の人にして此の如き大事業をなしたることをば驚愕せざらんと欲するも決して得べきにあらず

最初  
生活と  
其早  
塾

カルピンの紀元千五百〇九年ピカルチーに生れたり時ハ  
ンリー八世英國王位に登りルuterがウイッテンベルグに

プロ  
ステ  
トの教  
導者  
なる

説教を始めたる年なり氏のルuterの如く農民の子に非ず世間の所謂良家の子弟なり智力上に於ては最早く熟したりパリイの學校に於て高等の教育を受け父ガ氏をして法律を修めしめんと定むるに遇ふてナルレアンの大學校に送られ而してパルゲスに行き拔群なる法律博士の膝下に勉學し此處に於て數多の卓越したる士人と知己になりたりと云ふ其悔改の時代の凡千五百廿九年より氏が二十歳の時なり而して此事たるや氏の勉學と生活に新しき方向を與ふるに至りたり氏の靜穩嚴肅にして眼光炯々人を射るなり廿三歳の時に古文の註解を學び〔セネカ、チン、クレメンシー〕(Seneca on Clemency)と云ふ書を出版せり全年よ於てセルマニーの改革者と交を結び此弱年に於てすらフランスよ於ける改革者の首領

と仰かれ千五百卅三年にパリに行けり當時此地の既に國勢の中心にして當時の新思想が學問及傳道上の範圍中に一大騒動を創製して朝廷に迄も侵入せるの有様なりきソルボンの博士を以て義とせらるゝとの教理上の意義の爲に困厄を與へたりしが此等の爲に氏はパリにあるナバールの女王の城中に逃亡せざるを得ざる場合になれり此城は迫害を受けたる改革者の巢窟なり氏の尙フランスの諸方に於て逃亡者の生活を指揮したるの後スイツランドに退去して氏が廿六歳の時彼有名なる「インスチテュート」(Institute)と云へる神學書著をして佛王フランシス第一世をして「プロテスタント」の信に仰改宗せしめんとすの望を以て同帝に捧げたりルイ十二世の娘 Renee 即ちフェララの「マツチエス」の朝廷の時暫時イタリ

に任居せし后又セ子バに住居を定む而して是より氏が生涯中に於て大なる進行が始められり

セ子バのシーザルの時代にアロブロゲスと云へる町なりしが當時二萬の住民を領しサアポナロラの管轄の下にフロレンスのありし如く略之と全一の憲法を有したる自由國なり第十四世紀頃其守護支配者なりしサアポチイ侯に反逆したるをあり此小なる「サアポイヤード」の政治の實をスイツランド州の間に組織したるものゝ如くなりて其至上權の只法律を廢立するの能力を有したる二百人の議員に存し又特權を與へられたる少數の議員六十人あり

セ子バに於て改革主義の教義を説教せし最初の人のフラン

スの貴族にして教師なる「アレル」氏なり同氏が説教の異常

セ子バに移住

にして勢力あり數多の反對と憤怒に遇へりと雖も實に大功を奏したり然るに改革主義の教義の既にツリクバル及セルに於て重にアーリックズイングリイ及エコラムベシアスの説教に由りて建設せられたり使徒的のフアレルハ當時我廿八歳にして非凡の人物と知られたるカルピンをバ非常の懇篤を以て觀迎せり實にカルピンのセチバに來りて凡て其財産を潰せしが氏が死亡の時凡ての財産を合計して僅に二百弗のみなりと云ふ然ど幾程もなく教會内の教師として著名の勢力を用ゐる始めらる然るに當時氏の必ず能辨家ならざるべからず何となれば氏の狂信家を以て受納せられたる程なればなり時に紀元千五百卅六年なり氏の早く既も抵抗に遇へり即ち「アナバプチスト」派の爲めに窘迫を受けたる

とありカルピンがラチン語を以てセチバの信仰箇條を出版せざるを得ざる程數多の誤理を傳ふるコロリと云ふ者の爲に氏が純正教義も誹謗せらるゝに至りたり氏の亦罪惡に對する公明正大なる禁戒に由つて衆人を批難せり如何となれば氏の彼チアルがロンドンに於てサボナロラがフランスに於てなりたるが如き道義の完全の改革をなさん者と志せば也由つて遊樂の勢力が社會の風俗を敗壞し又之を敗壞せんとする思想だも含有する所の遊戯を嚴密に譴責せんとを求めたり是に於て加人民の感情の動搖し其市街ハ二箇の黨派に分れ聖晚餐を施すを拒みたる役者の教道に服従することを斷然抗拒せり是實に代議士がカルヒンフアレルを市中より放逐するに至りし處の擾亂を創造したるなり彼等始

其習慣  
及性格

ハバルに行きしもバルの人民の之を受けず由つて已むとを  
 得ずベセルに歸省せしどきにハ疲倦と凍饑に陥れりベセル  
 よりストラスボルグに行き此町にカルピンの三年の星霜を  
 送りたり其間神學を講義し又ハ講義神學に補益を與へ又ハ  
 「インスチーチュート」の組織（組織）を完成し或ハ「メランクトン  
 及其他重なる改革者と親密なる交際を結びたり又氏の宗教  
 上の公禮拜より退去したる時に於てすらも聖經の註解者と  
 して働さしとを看過すべからず  
 カルピンの學者なれど殊に神學に達したり而して彼が書齋  
 に於ての靜穩なる勞働ハ恐らくハ活動的の寺領の義務より  
 も其趣味に適當せるなるべし氏の高尚なる生活ハ其書中と  
 靜肅なる安臥にあり又高潔なる沈思にあり其勸言ハ智慧と

フラン  
グフホ  
ルトノ  
會議

適用とを求められ其裁判ハ公明正大なり如何となれば其性  
 たるや無法過信に由りて決して誘引せられたるものに非ず  
 朋友及其稱讚者の中ニ於てすら寒冷なる靜和の人なるにあ  
 るなるべし氏は感情を持たず凡て智識のみに由れり其追放  
 中ストラスボルグの議會より招待せられて神學上の演述を  
 なし又氏の其禮典を守るに不相當なるを制止したることある  
 主の晩餐の禮典に關してハ實に己を利益したり氏の靜に退  
 去地ニ生活し其住める所の人民に尊重せられたり  
 紀元千五百卅九年ハ會議がフラングフホルトに開設されし  
 ガカルピンのストラスボルグの使節として送られたり氏の  
 最初メランクトンに遇ひしも次年チャルス第五世に由つて  
 ナルムスに於て招集せられロマ教と「プロテスタント」の一

致を計る爲に開き其後ヲチスボンに移りたる議會に於て此  
 二大人に出遇ふ迄の其間に熟懇なかりなり此折メラング  
 トンの一黨を代表し博士エツイの他方を代表せりメラング  
 トンとフセルの平和を計らんとし教宰コンタリーニ我を  
 自身に取りての價値なき即ち我等の信仰を越過したる事等を  
 承諾して彼等の教義中の極端にあるが如き義とせらるゝ  
 この教義の概念を受納て改革者と同意せんとして自由又其手  
 を出せり然れどもルイテル及カルビンの如き眞理を私和  
 したる一致を計るを拒みカルビンは之の神の特殊の能力を  
 經ての徴候のみに止まるものなりとして禮典の中にキリス  
 トの眞正の現在を拒みたり然れども此點に於て天主教のバ  
 ーレンガの時よりして不同意なりルイテルの現に之を變

化するといなく之を變形して全く天主教會の教理より自由  
 にされざりきカルビンの我体なりとの語の我体を示したる  
 と思ふと維持したり原罪と自由の意志に就てのチーガス  
 チンに由つて顯はれたるより外に議論のあることなく然れ  
 ども最多の困難の義とせらるゝこの教義の説明にあり大困  
 難ども云ふべきの聖書の批難のなきが故に改革家に由りて  
 拒まれたる聖體變化説なり而して主の晩餐に關して勝たざ  
 る困難を引起したる事を認めたるときは俗人の「コップ」を取  
 ることを禁止すると死者の爲にする「マス」の禮典をなすと等の  
 信仰箇條の如き他の事件に進むの無益なりと思意せり茲に  
 一般に想像せられたる教系の神學の大体に就て天主教及「ア  
 ロテスタント」神學者中に大なる差異なり神三位一体、キリス

トの使ひなされたると、及神性、原罪、自由の意志、恩恵、預定等に関する緊要なる疑問のカルピンの嚴密なるが如くトーマス、アグイナスに由つて定められたり嚴密なる神學上の定義中の議論の大主眼の義とせらるゝと及晚餐の二者なり自由の意志と預定の事の天主教の神學者中に於ても決して一致せず或者のアクイナス、パーナード、アンセルムの如くチーガスチンと並び或者のトレンドの議會(セルマニ)のチャールス、五世フランスのフランシス第一世の助勢を以て法王に由つて招集せられたる議會に於て「セシユイット」派のエブライド及ラインツの如くペレチアスと並ぶが如し然れども此事に於てチーガスチンの教權と反對したる定例の即ち今天主教會が立てたる信仰なるが如く見るなり

セチバニ歸省

ラチスボンの議會の後カルピンの人民の熱心なる願望を以てセチバに歸れり大會の彼を招出し各人の聲の氏の上に舉れり「學問あり且義人たるカルピンの吾人が主の役者として持つ所の者なり」と云へり然れども氏の好んで此に歸ることをせず寧ろストラスホルグの靜穩の生活を願ひしかども良心に従ひて歸り又紀元千五百四十一年九月十三日悔悟心に満たされたる組合に歸れり而して尊敬を表する各自の證據を以て全市街に受けられたり人民の此時氏に必要に見えたる外奪を進物として送與せりと云ふ  
 氏の同年深く讀書を好みて高尙の心思ある寡婦アンデレド、デブリーと結婚せり氏の其女の死する迄九年間幸福に生活せり彼女の教育に於ても性質に於ても彼ルーテルの妻カセ

結婚



ル  
ト  
カ  
ル  
ビ  
ン  
ノ  
比  
較

リンボラよりも優れり常に其良夫の利益を計り小事にも決して郎君に反對を試みざる處の善良の副手なり蓋し尊敬と友愛との一致の基礎なればなりカルビンの更に得も考へざる所の情欲の愛に非ず其妻死せし時又端正の憂愁を以て彼を葬れり而して第二の結婚を求めず恐らくの婦女の望み願ふ處の者なる俸金の己が受くる俸金の僅なるが爲に妻を補助するに不適當なるの故ならん氏の寧ろ難義を求めて道理に適へる賜物と雖ども受けざりしなるべし氏の身体ハ斷食と勉強に由つて聖バーナルドの如く薄弱なりき氏が「インスケーターチュート」を成就せんとしたるときハ晝の食せず夜の眠らず而して氏の貧苦を實行せしが故に他人に之を反覆して教ゆるの権力あり氏の奴僕をも持たず倭少なる家屋

に住みて常に憐むべきの衣服を着せり氏の己の著述したり書物より利益を受取らず氏が受くることを肯じたる單一なる贈物の「ハアレニース主人(書)より送れる銀製の酒杯なりル」イテルの俸金の四百五十「フロリンズ」(銀名貨)なり而して四百弗も受くべき書買より年末の贈物を固辭し氏の著述の爲に贈物を受くることを願はずカルビンの俸給の一年に住家と穀類十二量酒二樽と共に金五十弗なり此時歐羅巴にハ茶と「コーヒー」の未だ知られざりき而して酒の水の次に必要なる飲料なり氏の勝りて智ある人なり裁判するも其感情に任ずるとなりポーセット氏のカルビンを強情なる性質なりと雖

(in genre friste, un esprit.)

えども氏の實に靜和にして威光あり愉快の風あり又抱禮奇

酷なりと雖ども婦人を以て氏が宗教上の主意を以て親切な  
 る會話をなすとより決して畏縮せしめず又誤謬を容赦せず  
 と雖ども一己人の讎怨を抱かずカルピンのルートルよりも  
 精練の人なり決して彼の如く粗糙なる詞の上に問隙を多く  
 與へず氏のルートルの生理上の強壯を持たず彼が才氣の變  
 化なく改革者として彼が猛烈なるいな「ルートルに動かすカ  
 ルピンの静めたり」此の誤謬の大城を攻破り他の其を取りて  
 后之を固守するに其餘を準備し前の者の通俗なり後の者の  
 高尚の智慧を訴ふるなりサキソンの改革者の多く能辨家な  
 りスイツランドの改革者の多く思辨家なり一の辨護したる  
 合一体なり他の上帝政治なりルートルの實容家なりカルピ  
 ンの舊約の觀察を其改革に彫刻したり一方の夜號の恩惠な

律法者  
 タルカ  
 ルピン

り他方の夜號の預定なりルートルの節目を切りカルピンの  
 線系を畫せりルートルの破解しカルピンは組成せり氏の政  
 治の大主義の貴族政治なり氏の精選されたる才幹なる少  
 數の人々に支配されたる教會と國家との二箇を見んとせり  
 凡て氏の著述を見るに俗民の主權の遺跡を見ず氏自ら政治  
 上の憲法に於ける恰もサボナロラの如くに感たり然れども  
 も僧侶と官人との職務を區別せり而してユダヤの立法者及  
 法王彼自らの如き神政治の意志を親和せり此神政治の意志  
 の教王レオ第一世の時あり如くカルピンの立法教系の基  
 礎なり氏の此世の權力の神の名に由りて支配さるべきもの  
 なるを兵器に由りて靈性上の主義も強壓されべきものなる  
 とを願ひたり氏の神の聖語と全意なるが如き遙遠なる迄教

る王の靈性上の支配を拒まざるなり彼は中世紀に求めたる所の至大の意志を實在するを願へり併しながら教會の常に靈性上の主義の原母を保存せざるべからざるを徒に求めたり然れども教會員に由て此世の權能の練習及純粹に靈なる事情に於て此世の權力の衝突を否拒せり是實にアンセルム及ベツケットの教理なり然れどもベツケットと異りてカルピンの此世の法庭より罪に由つて譴責せられたる僧侶を拒絶せり氏の寧ろ此世の事情は僧侶の服従するを求めたり彼の又階級不同破解し監督及監督書記執事長等の教會の位階を撤去し更ニ教會の集會にある僧侶の如き數多の俗人を立てたり然れども氏の放逐及禮典及執行を管轄すべき廣大の權利を僧侶に附與せり氏自ら其精神中ニ此世にある大

其改革

權の如く教會の政治及其管理に就て「プロスピテリア」派の方式の神聖なる憲法に關して兩つなから何に就ても己の教會の高等會員なりと思惟せり其國體たるや縱令氏の來る前より既に立てられたりと雖もカルピンのセネバの民政度に其大能力を熟練せり氏の道徳法を固定に組織するを企謀せり氏の府民の自由を制限し而して古代共和政体の憲法を以て寡人政治に轉せしめたり總會の一年に二回招集せられ役人及判官を擧ぐ然りと雖も預め二百の議員に相談せざる總會にて何とも建言すると能はず此後會も六十議員の前に呈出せられざる以上の建議たると能はず此六十議員すら小數議員に嘉納せられざるに建議し及ぶ能はず四人の議員の其十六人議員と共に生

死の權力を持ち國家の全体の公事の彼等の手中にあり最上の立法の教會及教會裁判所に多くの勢力を有する二百の議中員にあり若しも人が聖禮典を守ることを禁せられざるに之を受くることを猶豫せば一年間の追放を命たり或人の又日曜日の禮拜を忘れたるときに公然たる刑罰をなすべき事を決せり軍人の一日に二回祈禱の爲よ呼集められ又判官の神を汚すとの如き凡て聖名を侮慢するとの嚴罰一泥工が建築物より墮落したるときに之の悪魔の働きとの簡單に云ふたるとの爲に三日間牢獄に囚られ若年の娘が其母を輕蔑せば公に罰せられて「パン」と水とを持たせらる母も悪魔と慢りたる農童の公然と罰せられ其母を打ちたる兒は斬首申附けられ姦淫の死を以て罰せられ婦女詩篇の口調に俗歌を雜詠し

たる爲に鞭たれ浮戯に於て人の粉装したるも全くと罰せられ新婦の其帽子上に花冠を戴くことを許さず博奕の桎梏に處せられ骨碑及投球戯の賭博として罰せられ異端の死を以て罰せられ而して巫術の爲よセネバに於て燒死せられたる人民百五十人あり立法の顔装及家裡的の修飾習慣に及びて數多の清潔なる遊戯を共に制禁せられ祭日も戯場の展覧も亦然り此故に時人放逐せらるゝとは中世紀の教會の如くに非常よ恐懼せり

神の禮拜に就てのカルピンの壯嚴なる會堂及凡ての議式よ反對せり讚美歌を詠するといなせども洋琴の之を廢毀せり會堂より祭壇十字架壁畫を移せり教師の不在の節の一週間に之を閉鎖せり又我等の美術と云ふ所の者特別よ美術的の歌

を輕蔑し美術的の說教及雄辨美辭の法を左程貴重せず氏も自ら「エキステンポリ」(准備なき)の說教をなし說教を草稿に  
したる証左なり

晚餐に關してハカルピンハルイテル及ツイングリーの間  
を維持せり聖められたる「パン」の中にキリストの現存を信せ  
ず單純に符合なりとも信せずと雖ども方略によつて神の恩  
惠が賦與せらるゝとを信し龜鑑に於て吾人のキリストを熟  
考するとを得るなり洗禮の只に神の恩惠の徴候なりと思念  
せり救極に迄の本体に非るなり此故にルーテル及ロマ教會  
より異なるものなり然れども氏のロマ教會の祭司の如く此  
等の禮典を維持するに於て激烈なり而して放逐さるゝと  
ハ中世紀にあり恐るべき鎗劍の如く思へり之の主の晚餐

氏ガ  
晚餐  
ノ意  
就晚  
見

放逐  
事

及び目に見るべき教會の會員たるとの束修の如し氏の要求  
ハ激烈なりと云ひるべきも寧ろ眞に單純にして最初のキリ  
スト教會の如し即ち彼確乎不變なる神學上の推理より要望  
したるが如き彼詳細にして無形なる信仰箇條なり只神に  
於ける信仰キリストに於ける信仰なり然りと雖ども教會が  
一所に其會員を束ねるを得る處の單一の鎗劍の如きの形  
罰を放逐に用ゆべし而して之ハ最初より用ゐられたり然れ  
ども氏の殘忍と穩和親愛とを調和し古往今來獨一の神ハ只  
に人心を判決するに適するものなり而して此に於て中世紀  
の風俗を離れ去れり放逐ハ祝祖にわらず然れども其が爲よ  
信仰に由りて祈るべきのみ誰か神の聖手にある永久の死亡  
を決定する爲よ保護し又判決するものあらんや氏の放逐と

呪詛との大なる區別をなす此後の者の決して容易に確定せ  
 ずして只稀にあるのみ是已に古往今來赦罪の望の斷へ神の  
 怒「サタン」の手に交付されたり氏の主の晩餐の禮典に關して  
 の種々の薄弱を助くるの方略即ち十字架又釘けられたるキ  
 リストを見る爲に考ふるの時間と一又神の堅固なる復和と  
 共に生ける靈なる現在を認識するキリストの肉体の可見的  
 の表証とせりルuterの晩餐にキリストの肉体の現在する  
 を認識せり扱も氏は聖體變化説及聖められたる扁餅を眞の  
 神として禮拜するの思想を否拒したり晩餐に就いて改革者  
 の意見の此差異の最も惡むべき争端及議論に至らしめたり  
 カルビンの其中間にあつて適中説を取りて「プロテスタント」  
 教會を一致せしめんとせり氏は常に平和と適合とを求め而

氏が禮  
 典及祭  
 式ノ嫌  
 惡

神ノ禮  
 拜ノ簡  
 易

して其平定の度の己の敵の間に分離を見んとを願ひたるロ  
 マ教會を喜悅せしめたりき  
 カルビンの禮式祭典及其種の事に就ての他人と大に異なり  
 「クリスマス」の如きは只一の祭典なりとして氏も之を守れり  
 氏は排議叱咤して或者の日曜日を廢止するを願ひしとを  
 憎惡せり其考説に由つて后来「ユリタン」派の嚴重なるを  
 教へたり氏の集會の歌詠を輸入せりと雖ども其耳目の混雜  
 するを許さず音樂の洋琴及樂器其他凡て精妙にして美術  
 的なる顯著を一切罷免したる簡單なるものなり而して此凡  
 ての禮拜の嚴重なる簡易の殆んど過去れりとの事を云ふを  
 要せずと雖ども變化の改革者が熱心なる宗教上の年代に於  
 て人民の上よ最深の思慮を生じたる處のものなるとは疑ふ

と能はず改革者の詩及歌の大なる宗教上の動搖したる時代に集成せられたりカルビンの宗教より音楽の技術を區別せざる所のルーテルよりも遙に後にありてカルビンは公禮拜より美術を分離したり實に宗教改革は神聖なる詩の外に或方式に於て美術を裨益せず然れども開化を裝飾する此等の美術を求めたるよりは寧ろ靈魂を救ふ此等眞理を表示したり此故又其教會の裝飾壁畫に未熟にして人民が宗教上の眞理に由りて動かされざる時に甚だ冷淡嚴冷なり彼等の其言語の通常の意義に於て能辨術を利益とせず講壇の能辨術の簡單明白にして辨説上の目標を用ゐず体育資勢和調の音聲に於て結果するを求めず然れども熱心を以て心理及良心に訴ふる也十八世紀のロマ教の説教者ポーセツト、ポード

教會政治ノ思想

ロー、アシリチアの如きの能辨家として「プロテスタント」の者に勝ると遙かなり  
 カルビンに由つて立てられたるが如き神の禮拜を記したる處の簡單なるもの又氏の教會政治の教系に於ての型貌となすべし氏の監督及執事長教師長又其類の者を罷免したり氏の眼孔に於ての説教する人は「プロスピテル」即ち長老よして各長老の監督なりとす執事の貧人を看顧する役人にして説教をなさず然らば役者たる者の重役の名稱即ち内部と外部との二箇に就ての名稱を持つべくして僧侶と人民と一致して之を選擧すべきことは必然の事なりパウロとバルナバは長老を立てしが人氏の其手を擧ぐるに由りて承諾の意を示したりカルビンの組織したる長老主義の教會の役人及僧侶

に由りて代表せられたるを維持したり氏に此故に僧侶との會合に由つて組合に放逐の權を與へられたりルートル教會に於てのロマ教會の如く放逐の權をば只に僧侶に授けたり然れどもカルビンに只に禮典を掌るの權を僧侶に與へたるも主の晚餐を禁ずると放逐するより他の裁判權をバ教會の與へざりし氏の教會の組織の智慧と純潔とを証明したる僅の人の手に權力を置きたる貴族政事的なり氏の民政上にては宗教上にては共和政治と同情同感を保持せずして長老を選り役者を選定する權を議員に與へて教會と政府間の緻密の一致を形くりたり既に前に話したるが如く僧侶を民法院より拒絶するをも企圖せざりき一週間に一度集會したる教會裁判所の長老と説教者にて組織し其前に招集

許容、  
欠亡

したる民法庭の使者の此會に必ず現在するを要したり此等の人々の權力に此等の時に許容せられず然れども教會裁判所の自ら刑罰を加ふると能はず之をなすの尙民政府の傾内にあり長老と僧侶の民政上の刑罰を加へられず然れども單に之の靈性上よ於て聽くべきとなると及法庭に於て聽くべきとなるを決定したり代議官の最初に靈性上の集會に議長となりしが是只に教會の長老のとなりき長老の議員より選舉せられ選舉の代議員及人民と説教者とに由りて定めらる此の如くなれば教會の眞に僧侶を命したる政府の手にありしなり而して己を周圍する情慾境遇の目的に由りて支配しカルビンに由りて教會と政府が非常に混合したるを見らるべきなり然れども他の時代他の國民に於ては此事なかり



き此教會が政府の管下にあること凡ての改革者によりて  
 支持せられたることにて政府をして教會に服従せしめんと  
 を求めたるロマ教會に反對して立てたるとなりカルビンの  
 教系を用ゐたる教會の通俗の政治の其僧侶に恭敬を歸した  
 れば勢ひ孤立するに適したるときに高慢と大望者とな  
 りたり而して其恭敬の教會歴史の全体に基因したるものな  
 り  
 縦令カルビンの教會の靈性上の品位に就て高尚なる思想を  
 持たりと雖ども官吏の事業より僧侶の職掌を區別すべき時  
 に於てすら傳道上の事務に於て政府の甚危険なる干渉を與  
 へたり氏の政府が定教の疑問に最後の宣告を申達することを  
 承諾したり此故に大會の権力のゼネバに表徴せり且又役者

教會ト  
國家ト

の報酬に此國に於てする人民に由つて出だすとよりの層ろ  
 政府に由りて拂ふなり是カルビンが屢々傲ふたる古代のユ  
 ヌヤの風習に反して居るとなり何となればユメヤ人中の祭  
 司の國王より獨立なり然れどもカルビンの僧侶間の等級を  
 破解し従つて靈性上の暴靈を解脱せんことを願へり吾人氏の  
 政治に於て改革家の活潑なる原素の一なるロマ教會に非常  
 なる敵對あるとを見るなり此故に改革者のロマ教會に反對  
 なるが爲にシトラよりカルボチスに行きたるなりカルビ  
 ンの凡ての教會員の如く自然に古代のユメヤ教及中世の教  
 會貴族政事的思想を讚譽し而して實際に教會を俗人の  
 手と置けり或意味よりせばカルビンの靈性上の提督なり而  
 して「プロテスタント」教王の一種類なる彼ルーテルの如く尙

且羅馬教會の祭司社會に組成したるが如き靈性上の權力を有する不幸なる教系を建てたり彼等の僧官の靈性上の權力に向つては一個人の行爲及善徳の結果たる道德上の權力を代用したるなり或人民の玄奥的の師父としてカルピンを呼ぶとを喜悅するにあり然れども人は嘗て實有したるより多く熱心に僧侶主義に戦ひし者なり氏が改革の倫理上の順序は貴族政体に非ず而して彼スコットランドの「エラステア」教會及獨立なる「ニュー・英蘭」の「ピューリタン」の「プロスビテリアン」派に非ず

然れども又此にカルピンの政治に於ても自語相違あり如何となれば氏のセルピトスの場合に於ての如くに氏自ら裁判せんと欲したる處の者をも民政權に讓與たるが如き古代

マ教會の氣象を有したれば也氏の嘗て社會生活の圈内に入し靈性上の貴族政治より此世の貴族政治を建設せり而して監督上の原素を破壊し僧侶と官人との間に最初の教會に於て認識したるとなき區別をなせり宗教の許容の如き或國或教會にも存せずして此處に眞の傳道上の自由の如き者あるとなし凡ての改革者及羅馬教徒の信仰を就て強逼の一致を企圖せり然れども此の能はざるの事なり改革者の凡て聖餐に列する者の學ぶべく受けざるを得ざる處の信仰箇仰的神學上の教系を採用せり是眞實な教會が準備したる處を嘉納したるものなり信仰箇條の恐らくは能く組織したる教會の一体に於て必要の者にして又無理ならぬとなり然れども是又聖經の意義を思惟したる處を人に由りて作爲せる

定教なるを決して忘るべからず而して是に最後の論理上の結局に推究したるときに心内裁制の権力と合致せざるもあるも亦遺つべきに非ず吾人の彼等の爲に聖經を説明するに適し此権力を練練するに適するものは如何に少數なる可を記憶したる時に何故に既に公証せられ定めたる信仰ヶ條が信仰の一致を保護するに必要なるを目標するを得るや然れども「プロテスタント」の神學者が聖經より引用したる所の信仰の條款の嘉納を主張したるときに有形上に於て彼教理の事項より凡て教會の主權の嘉納を要すと固執する點に於てロマ教徒と異なるを見ず恐らく教會の組織は一定したる信仰個條なくんば決して成立し得べきに非ず斯る信仰ヶ條のニシア會議より存在したり縦令智識の進歩に由り

て變形し減少するとも將來に於て大凡キリスト教會に由つて棄絶せらるゝものに非ず然れども凡て教會の承諾して教會に關係したる信仰ヶ條なくしては信仰に就て教會の一致を受くるの困難なり而して是常に必要なりとせり是實も人民の爲にキリストアン教育に必要な方式なりカルピンの信仰ヶ條に大なる緊要を歸して小兒の爲にも之を準備したり

氏の亦ロマ教の禮拜の混雜したる儀式の外に説教に大なる價値を置きたり而して其日より吾人の説教に至る迄最多の「プロテスタント」教會も於て教會の禮拜式の尤も卓越したる部分を占めたり而してロマ教の公禮拜が屢々單純なる儀式及献身の精神を助くる禮典に迄に衰微したるを承諾せざ

るべからずかく「プロテスタント」の禮拜の屢々冷淡と理論的  
になりたるをも亦許諾せざるべからず然れども之の非常に  
悪しきとなりとの云ひ難きと也

神學者  
タルカ  
ルビン  
ト其  
「イン  
スチー  
ト」  
ト  
斯の如くに多くカルビンをバ改革者及政事家の光に於て見  
たるが氏の力の亦神學者として著名なるものなり氏が教會  
歴史中に卓越したる現象として他は一步を譲らざるもの  
其神學なり氏の廣大の才幹を顯はすや此の如く氏の凡ての  
改革者中に最も卓越したるや斯の如く氏の同時及后世の思  
考上に其心理を發表したるや亦此の如く實に古來原始の人  
永久不朽の人物なりと云つべし氏が神學の教系の其著出「イ  
ンスチーチュート」の中に含有し氏が喫驚すべき論理の能力  
を以て保護したる惟一の中央の原理之外國に教會の一般の

教理を發光するとよ於て著名なり氏の彼詭辨を用ゆるも驚  
くべき功手を顯著し頓智と機刺に由つて敵手を壓制し自負  
自滿にして建設するよりも層層破解するアベラルドの如き  
擊劍家も非ず氏のエリージナの如く理性を神の如く崇拜せ  
ずヘルナートの如く主權に偏投せずチーガチンの如く簡容  
主義ならずポナベンチユラの如く玄奥的ならず氏のアンセ  
ルムの靈性上の洞察を持しトーマスアクイナスの理論英敏  
を保ち然れども他に主宗を取るとを認可せずして只キリス  
トを宗とするのみ由るのみ聖經が教ゆる處の總体の黙して之  
を受けたり氏の自然の理性よりせず教會の主權よりせず氏  
が原始の位置を取れり然れども固より氏が説明したるが如  
き神の語と聖經の教訓より氏の抗抵すべからざる論理を以

豫定ノ  
教理

て順序と結局けつごを作りたるなり最悪の意味に於てハ一方に向  
ひて常に一般に緊要きんようなる他の真理の了解りようかいを取ることをせず氏  
ハ己の握手あくしゅたる真理の總体を最も多き論理上の關係に推  
出すとに全く大膽だいだんなり此故に現に智覺ちかく即ち自然の理性りせいと衝  
突つする處の其承諾ちやくだくたる預定よていより結局を作ることも多くの權  
を與へ又學識ある批評者に顯あはせり而して此に於てか嘗て  
其を信ずるとは能あたはざるとなりと云へるハが故に其教理の  
多分に違背ちはいしたり  
概して云へバカルヒンの實じつハ凡ての時代に於て其廣大の光  
に由りて保護せられたる教會の受納じゆなうれたる教理より異なら  
ず氏の格別かくべつなるとの縱令じゆうじやうアタナシアスよりアグイナス迄論  
じたる凡廣大なる主意を談りしと雖なども神學の要略を作る

中世ノ神學ト和合ノ氏ノ一般ノ教理ノ  
紀和ノ就ノ

とに非ず却て氏の「インスチチュート」の神學の盡じんしたる教系  
なりと能く呼ばるゝ處なり茲に氏が單純たんじゆんなる明亮めいりやう及神學上  
勢力を以て顯あはさる處の大なる教理あるとなし然れども  
氏が有名ゆうめいなり一處の神學の一般の教系に非ず然りと雖なども  
主意しゆいの或階級かくきを卓越てつごつになすとなり其間に氏と其才幹の全力  
を抛擲たうてきり實に教會の凡大なる光ハ其時の緊要に出遇でちうふべき  
特別なる教理の議論の爲に若し斯様にハアタナシアスの  
縱令一般に神學上の智識ちしきの教師なりと雖なども三位一體論者  
の議論と一般に看倣かんぱうされたりチーガスチンの格別にベレテ  
ヤスの異端の辨駁べんぱく及人間の邪惡じやくに其留心を向むはせたりル  
サーの大なる教理の縱令チーガスチンと全ぜんじ地位を取りた  
りと雖なども即ち信仰しんぎやうに由りて義ぎとせらるゝとなり是こゝに教

會を示す處の懺悔及代贖の廣大なる教系其上に多くの輝き  
 わる亂用が基いたる處の教系を歐羅巴の半に於て蹂躪する  
 に至りたる即ち氏が保護したる恩惠の教理の論理上の結果  
 なりアタナシアスの如きの三位一体の教理を立つるに由  
 りて教會に大なる務を致したりルーサーの如き真に前よも  
 云ひ如く義とせらるゝとの眞の基礎を辨説に顯はすに  
 由りてローマ教王が執迷の一山頂を顛覆したり吾人がカルビ  
 ンに就て云ふときこの縱令氏の目的に就て創設の需要をな  
 さずと雖ども我心の前に起りたる預定の主旨意なり氏の有  
 形上よりの氏の前にわたりチャーガスチン又のコーテスチャ  
 イクトーマスアクイナス氏の後にハスカル又のエドワー  
 ルトより異ならず然れども人の未だ嘗て氏の如く適宜に此

罪惡ノニト  
 救テノ  
 就見及  
 意見  
 一カ  
 ズム

混雜したる玄奥の主意を顯はしたるものなかりき此大なる  
 目錄を論ずるは我が爲に非ず余の單に其時代の神學の上に  
 カルビン自らの意見及氏が推理の結果を與へ歴史上より其  
 趣旨を顯はすを願ふ也而してカルビンの意見を與ふると  
 に於て余の彼優等の傳記學者ベルリンの博士ヘンリーの羽  
 翼の下に隠れざるを得ず而してスイツランド層ろフランス  
 神學者の特別なる教理に就て氏が露出の大本体を引くべし  
 ヘンリー氏に由ればカルビンの神の主宰の意志と己自ら  
 の榮光の爲に人間種属の或一部分を永遠の生命に選み他の  
 部分を自由なる意志の能力を失ひたると只神の恩惠に由り  
 て善をなすの自由の改復せらるゝことを主張し然れども此恩  
 惠の只選擇の上に與へられ而して其選擇の神の預知に由る

に非ず只世の造られる前に其隨意なる定奮に由りてなりと維持したり是即ち「カルピテズム」と呼ばるゝ處の此等の格別の教理の大體なり而して多くの者に由りて聖經の教訓より此等の教理が出づるとして著しく狐疑なき信仰を受けらるゝ神學の基礎たる原理と考えられたるなりチーガスチン及アクイナスの眞に全一の教理を受けたり然れども彼等の其教系に於て此の如き卓越をなさずば此の如く切に解説されざりき

カルピンの敵手にて英國教會に輝いたる明白の光明なるゼレミイテローラ大監督ホエットリ及教授ホーズリー等を含有せり此等の人の曰く此等の教は只に自由の意志に反對するのみならず神の人間が罪より歸り與ふ只一の其恩恵よ

聖經之ノ直接訓一ノ全價論上ノ推論ニ要ス

りて抑へ獨り人間を破解する爲のみに創造し未來無終の刑罰に人間種属の大部分を其聖意の隨意に罰し給ふものなりと云顯は「陶器師が粘土を貴きと賤きとの器に作るが如くに非ず只粘土を善にもあれ惡にもあれ何よても其造り此る器を破解するに作りたるのみ其教理の常に聖書に神の愛の神として受取たる意見と衝突し又自然の公義と衝突す此故に一方に偏りて狹隘なりと云へり

假定よりして此等の教理の出づるなり使徒パウロの著述したる處の聖經に此等の本文あり即ち斯の如く「彼が世の基を置かざりし前に選びたるもの彼の預め知り預め定め給ひし處に従ひて我はヤコブを愛し我のエサウを憎めり陶器師の其粘土の上に權力を持てるに非ずや」等なり此等の本文より

カルビン及チーガスチンの預定説が(兩人なほ持たれる也)論理上に引用せられたるとい誰も之を否むものなり此等の卓越したる神學者の平行線に行く處及聖經の意志が自由なりと云ふ大なる實事を一方の場所に証明すると等しく意志が不自由なりと云ふ事を他の場所に証明するが如く教理を改作する處の他方の眞理を看過したりと云ふとい拒むべからざることなり「ペレヤアン」派の者の恩惠の必要を拒む迄に意志の自由の教理を推論し「チーガスチン」派の者の恩惠の奴隷たるこの教理を眞正の運命説に迄も推論したるなり然れども此等の大なる論理學者は現に彼等の論理が至らざるを得ざる處の結局を避けたりチーガスチン及カルビンの二人共運命説に對して抗言せり而して彼等の意志の罪人の壓制なく

して自由を働くとを得ざる程に自由なることを証明したり而して従つて其罪の罰の其者自身に歸し他の者に歸せずカルビン、チーガスチンの教理の論理上に進んで小兒の刑罰に遇ふとに迄及ぶ也然れども實事の情態にしては彼等の論理が斯の如くなることを維持せざるなり此の如き事を信するは若し之が確然と證據せらるゝと雖ども人間の性質に於て信すべからざるの事なり而して罪惡に就ては誰も嘗て罪惡の此世界に蔓延し而して刑罰を受くるものなることの事實を争ふものなり然れどもチーガスチン及カルビンの學校の神學者は事實の意見に於て實に争ふべからざる罪惡は永遠の神に反對するものなることこの假定を取りたり此故に永遠の神に反對する罪惡の



罪惡其自身が永遠なるものなり而して此故に罪惡の刑罰を受くるものなるが故に永遠の罪惡の良心が退縮し又聖經に由りて何ども証明せられざる處の結局永遠の刑罰を受くるなり是れ實地の基督教と共にするの甚だ僅なる處にして又聖經の明白なる教訓の如く承諾されべき信仰の定見として置かれたる所なる無形上の理性に於て到着したる結局なり人間の理解に輕蔑に當るなり然れども此結局の遠傳したる罪惡の永遠にして永遠の刑罰を受けてとの信仰を含有して人心を恐赫せり此恐怖すべき論理より保助の爲に神學者の聖書の此外の第一の教訓なるキリストが罪惡の爲に代贖をなし信者の此贖罪に由りて救はるゝ大事實を引出したり此聖經の教訓の非常の安慰なり而して之のキリスト教の驚

くべき擴張の尺度を計算せられたり古代の羅馬世界の難澁なる人民の其智覺したる罪惡又失望に彼等を繋ぎたる罪惡の爲に代贖としてキリストの彼等の爲に死したることの喜音を聞きたるなるべし然れども他の神學者の階級のキリストの死の世界の罪の爲に永遠の代贖なるが故に凡の人は從つて凡ての罪人が救はると云ふ假定より出でたり是チーガスチン及カルピンが定めたる教理より出でたる最初の「ユニバールリスト救民得」の基礎なり然れども彼等のカルピンが決して之が視覺を失はざる處の聖經の教訓即ち救極の只に信じたる處の者の爲なることを看過したり今然る程に小兒を含有したる人間種屬の大概の信せざりきは是凡て信せざる處の者は亡ぼさるべしとの論理上の結局と成行くなり然る時

に論理と智覺との相衝突するに至りて只玄奥の天上に至るに此等が反對を與ゆることに於てのみ互に保助すること毫もなきなり

余の此等の神學上の困難に關しての人心及靈魂が何時にても聖經の本原なる教訓に属するが如き同じ主權を授けて神學上の推理に服従したる處の暴虐を單に顯へたるのみ而して之の組織せられたることよりの遙にして現に和合することにですら能はざるなり信仰の最大なる或教系の論理上に聖經の本文より出づるを得るものなり而して主の格別なる階級より結局を引出すよりの寧ろ此等を和合し此等の一般の精神及意味を顯へすの神學者の働作なるべし聖經の本文より出づる推理の或教系の同等の著書の本文によりて和

合せられたり然れども現は異なる意味の必然に一方に偏し不完全なり其故に狹隘なり詳言せばカルビンが勢力たる所に、非常の困難あり氏の大なる才能を有し智覺を有するキリスト教徒の或階級に、狹隘なるが如く一方に偏したるに見ゆ此故に彼等に對して氏が主權あることなりキリスト教の大なる基礎の教理に就いて理解すること能はずと雖も氏が預定の意見及之と撃合する主意に於ての解することを得べし而して后世に至り氏格が別の教理よりかゝる分裂の源の右に於て見たる單なる形已上の神學に多くの重要を添ゆるの大なる誤謬にあり彼クランメルの如きの比較して僅少の關係の事項なりとして既に始まりたる凡て此等の形已上の疑問を棄て最初の信仰の疑なき教理に退きて英國教

ソビエ  
ソタン  
カルビ  
ン才智  
テニ由  
サノ誘導

會に大なる生命を與へたる處の英國教會中の大智者なり  
が氏之而して教會を濶大になし又公同にしたり「ビュリタン」  
の一体として「エビスコパリアン」の群集より多くの智性に富  
み學者的カルビンの設けたる混雜したる理論に誘導せられ  
たり而して不運にも彼等が法律の最重の事項とせし彼最も  
多く混雜したる自由の意志及預定の如きかゝる主意に多く  
の切要を歸するに至りたり而して恐るべき「テリレタム」に敵  
手の論法に由りて衝きたる時に未だ嘗て彼等の説明し又理  
解せざりし或事の如く「ロマ」教の機密の教理に退くべき様に  
逼まられたり然れども是キリスト教徒の立與として承諾す  
べき責任なり聖經の實に更生の如き立與に就いて譲りたり  
然れども是人の如何にして神の靈に由りて更生すべきの不

氏が全  
神學  
ハ神ノ  
尊榮ト  
人間ノ  
微賤ハ  
ルハナ  
リ教理  
スリ發  
光

可思議の一事なり併し事實我等の毎日に見る處の者なり而  
して全く他の事の聖書が何處にても別に確言せざる處の信  
仰の事物として承諾すべきことと立與をなすの自然の公義  
の凡ての思想に反して理論上の理性の狡猾なる作爲に由り  
て到着したることなりとす  
然れども此事たるや嚴肅と誠實を以て思考したる大なる眞  
理より此驚愕すべき推理を作るにカルビンの如き智性上の  
巨人にあつては自然の事なり只眞の高尙なる性質の氏のな  
せし如く氏の前に「チーガスチン」のなしたるが如く氏の后に  
「パスカル」のなしたるが如く神及其制度に属する處の此大な  
る主意の内に於て示現せられたるなるべし凡氏の考案及定  
教の神の尊榮と人間の微賤に就いて廣大且高尙なる思想よ

り發光せり而して氏の救極がキリストに由りて默示せられ  
 たる以前昔時の大賢より相去ること決して遠からず嗚呼汝  
 の穿索によりて神を認め能はざるや果して汝の彼を慮る處  
 の人なりや  
 而して余の神學者と哲學者の嘗て人間の品位を高尙にすべ  
 き傾向を持ちたるものと神の高大の内に吸収せられたる人  
 たる處のものとの二の大なる學校に區別せられたることを  
 記憶すべし此等の二の學校の論理上其最終の關係に持出  
 したる處の教理を辨護したり一方にグリシヤの英雄崇拜  
 主義を出だし他方に於てプラマ教の種類を出すべし一方  
 の人間をバ神の動作に關係なくして已の運命の判者となり  
 他方に於ての神を宇宙の惟一の能力となり一方の學校よて

の神を只支配する働作として方便なりとし而して人間自身  
 の才能に於て無限なりとし他方の學校にての神の萬物と各  
 異の物にして人間のなにも價なき者なる事を維持したり此  
 等の二の大なる保護者を持ち其基礎たるものを擧ぐればチ  
 ーガスチン及ベレザアスの間ベルナアド及アベラルドの間  
 カルビン及ライプニツの間にある如き是なり神の尊榮と微  
 賤なることとの教理に偏したる處の此等の間に最初の桑門  
 者及印度の神傳説家及中世紀の純正學派の如きありこの凡  
 には他に比較して物体の愉快と物理上の進歩に冷淡にして  
 靈魂の救拯及凡て此世の恩惠の外に神の恩寵を求め他方の  
 階級よ於てグリキの哲學者及合理論の學者及近世學術  
 の光とを有したりき

カリビンの教會の師父及數多の宗教の高尙なる精神を以て  
 漫染せられ中世紀の學者及聖徒を參考し神の恩恵の助なき  
 人よ只僅少の品位を歸したる時に神の主權の思想を以て吸  
 収せられ神の手に於て人の陶器師の手よある粘土の如く  
 神に就ての此意見の氏の神學の全体の精神に貫徹したり而  
 して二つながら高尙にいたれども尙一方に偏したり氏に迄  
 の人間の最重の目的の已の智性上の才能を發達するふとに  
 非ず尙此世界の快樂の鼓舞を求むるもあらず神の榮光を  
 顯はすにあり人間の永遠の神の前に罪人なり而して人の神  
 の格別の恩恵神の賦與したる恩寵に由りて罪惡の汚れたる  
 勢力より逃るゝことを得るなり人間の永遠の刑罰を受くる  
 程の大罪人にして只獨り世界の造られたる前に選擇された

氏於ケル神  
 ニ信仰ル  
 ハハナル  
 ハハナル  
 神ハナル  
 有ハナル  
 異ナル  
 ナル者

る者の火より抜き出だされたる燒木の如く解説することを得るなり人間の大概は約定なきキリストの恩恵に殘されて救世主の種属を救ふものに非ず凡て之を信する處の者のみに限るなり

此故にカルビンに迄ベルソナなる神に就て神の萬有と各異のものなりとの信仰の「ヒユリタン」の如くにして吾人の智覺に已を顯はす處の萬有と一体なる神の一般の存在に於ける如き強逼なる信仰に非ず萬有の凡ての奇事に見るべき凡神敎家の神に非ず或不足にして宇宙の律法の運動に任せて其造りたる宇宙より退隠したる處の合理論者の神に非ずアブラハムモーセ及其他の預言者の見ることを得且認識し得たる其格別の攝理に由りて人間の運命を支配する處の神なり

改革者中最も智理ある者の道理を神の如く崇拜するを厭惡し  
 一既往に於て幸福なる聖徒及殉教者の生命希望にして且甲  
 冑を着けたる不信仰者との戦争のイスラエルや牧羊者がイ  
 スラエルの神の權能を輕蔑したる處の高憤者に對して圓石  
 を投げたる如き時に生命たり希望たる處の超性的信仰主義  
 を高むることに親和したり而して氏の神學に於て價値ある  
 處の事の社會の快復に大能の認識より發光せざるべからざ  
 ることを感したる處の師父の實説と眞密なる同情同感を持  
 ち來たせり而して之を擴張したりしが法律及進歩及自由の  
 思想に就て人類の意見に由らずと雖ども超理的に又玄奥的  
 に律法の上にある主權の意志に由れり古往今來神の律法の  
 記者なり氏の只に大切要の眞理の他の階級の結局に此等の

眞理のあるが如く高尚なる第一原因の尊榮より出でざるを  
 得ず又不十分且偏僻なる教系に與へたる處の眞理の或階級  
 を強ゆることに誤れるのまかくの如く其戦争に於て誤謬  
 を以て眞理の能力の價値を輕ずるに至らめたり氏の神の  
 中に二箇の意志の認識を見るに至らめたり即ち萬人が救  
 へらるゝとの意志及只選ばれたる者が救はるゝとの意志はな  
 り氏の心よ指したれども其論理上の結局より出づる様に見  
 ゆる處の運命説の學問に就て訴へられたり氏の決して定め  
 おかざる形已上の議論の戰場に投入せり自由の意志及其必  
 然の決して人間の理性よ由りて復和すること能はず良智の  
 意志の自由及罪惡に奴隸になることを現示す人間の此二ヶ  
 に就て智覺するものにして玄奥の後に隠れざるを得ざる程

其教系  
ノ不完  
全

に強ひられたる新英國（ニューイングランド）の路邊（ロードサイド）に於て恭敬なる師父の如く二  
 ケの現に反對したる事實を復和することと企つる爲に其時  
 を浪費せり  
 カルピンの教系の偏向の多數の者に由りて談られたるが自  
 然の公義に属する處の神の屬性を不公正及猛惡に歸する  
 にあり縱令罪汚の人類なりと雖も父の其己の子供を以て  
 己の才能を演習せざるが如く善人ですらも神を人よりの僅  
 の慈悲なりとなすべく偏く處の教理の其心に承諾せず人の  
 才智の縱令世界の猛惡なる戦争及不要なる鐵道の損害に於  
 けるが如く他人の不注意及邪惡より受くる人の例証に充滿  
 したりと雖も一人が眞に他人の罪惡の罰を受くることを  
 確言したる時に驚愕す聖書に持出され人の智覺に持ちたる

聖經の賞罰の法律の人間が「ペルソナ」なる隨意なる過罪の爲  
 に拂ふ刑罰なり人の智覺の格別に強大の誘惑の下及罪惡あ  
 る性質の凡ての偏固を以て人間の罪惡の永遠なりとの專の  
 教理を承諾せず創造せられたる人間のなすべきこと何も  
 なくして永遠なり其の只に永遠なり獨り神に屬して永遠な  
 り此故に永遠の罪惡の爲に永遠の刑罰ある人の智覺と衝  
 突し何處にも聖經の證據なし是縱令強く理論上の理辨に由  
 りて持し且最も卓越したる人間に由りて保たるゝとも信仰  
 の數多なる神學上の教系より勝りて多分の恩慈と安慰あり  
 人間の裁制及理性の表裏二面ある處の道德上の疑問に誤  
 解なし易し而して聖經の本文よりの思辨の吾人が尙信任す  
 るに足る學問及技藝の光に由りて學びたる時異なる意味

を顯はせり是の神學の教訓の意味を解説するに神學校の爲に最上の必要なるべし聖經の本文の或一方の階級より哲理上に想考されたる完全にして一致する教系を引出したるより俯る現に聖經の本文と衝突する本文と其關係に於て教理を顯はせり萬事に就て此悪く混雜したる世界に於て神學の最も愉快又最も感動を興ゆるなるべし何となれば是の想像上の心を感動する高尚の主旨に於て尋問を含有すれば也

氏が持ちたる優等の才能を有名なるカルピンの教理の組織が縱令總体が不完全なりとするとも第十六七世紀の思考上に其偉大の勢力を有したることの疑もなきとなりフランスホルランドスコットランドイギリスフランスの諸學校

の氏の才幹と著書より活動したり氏の若し凡ての時代にはいならずとも少くとも氏が生活したる紛亂したる時代の焚燒光輝する光なり神學者の嘗て大凡三百年よりの其大なる死後の權力を有せず然れども氏の萬國教會の尙大なる主權の一なりジョン、ナツクスの其商議を求めスコットランドに其なしたる大改革に氏が勸言に由りて勢力を得たることありフランスに於ては「カルピニスト」と「ヒュリゲノット」なる言語の同様なり克蘭メルは余り氏が商議に耳を傾け氏の學問及善良なることに太なる尊敬を有したり「ヒュリケンの間に巫祝女の如くに遇待されテリバ、クロンウエルの亦マシユール、ホルのなせし如く氏の教理を可納しカルピンを嘲弄し輕侮するの「プロテスタント」が長くヒルデブランド及イ



カルビンの貴族なり

ンノーセント第三を攻撃したることを以て之を嘲弄し輕侮するが如くに理に背きたる愚なるとなり誰もパスカル及チーガスチンを輕侮するものなり然れども此等の凡て神學上の意見の實に全一なりと云ふべし

或關係に於てハカルビンの其業りたるよりも多くの尊敬を受けたりと思ふなり或人の氏が共和主義及共和政治的の自由の師父の種類なることを云へり眞に氏の俗民の同情同感を有せず寡人政治の一小種類なる貴族政治に偏きたり氏のゼンバの政治上の教系を組織することに於て手を下さゞりきは既ニ氏が行きたる以前に建設せられたり氏の良心の眞正の自由を以て感動せられたる此等の思想家の一人ですらあらざるなり氏の中世紀ロマ教會の如く異端者を苦惱せし

其智力

め只氏の爲に起ることを要せざるセルビトスの死を引起したる如くガリレヲを燒殺したるなるべしカルビンの其意に適ハセルビトスを教ふことを得たるなり然れども氏の其刑罰と死の必ず之に従ふて起ることを知りながら法官に彼を告訴したり氏のルイテルの仁心を有せず聖チーガスチンの寛容なり氏のニユートンライブニツツスピノザ及カントの如くよして其心理の感動を壓倒したる處の智慮が其人の本位となれり氏の正教主義の爲にする熱心の外の情性を有せず此の如く卓越して同情同感を欠くが如くに見ゆる處の情性の上に智性の高塔を立てたり然れども是其高尚の性格なり交際の不適當なることハ感せざりき氏の頓智想像の外に心理の各能力の爲に著名なり氏が記憶の多分信せられざ

る程のことなり氏ハ嘗て讀み又聞き處の事ハ何にても記  
 憶して長き隔の各一度か二度の外ハ決して見たることなき  
 事を認識せり口授を用ゆる時に最も多くの混雜したる妨害  
 の后ハ助言さるゝことナリに其談話の系線を呼出したり氏  
 の裁判ハ其記憶の好記憶なる丈に名聲ありて最も誠實なり  
 人誰も嘗て其に由つて欺かれたることを知らず氏の著しき  
 分折力を有し又概括力を有せり氏ハ眞の學者なり而して其  
 註釋ハ其記録中にありて學問と裁判とを表し一ながら最も  
 切要にして價値あるものなり其講義術ハ進歩せざりき氏の  
 解疑的及合理的の傾向を有せず此故に其註解ハ進歩したる  
 思想の人に由りて喜ばれず然りと雖ども其註解ハ尙聖經批  
 評の圖書室に置かれたり何となれば其時氏にハ勝りたる批

其非常ノ動作

其嚴肅

評なりければなり其種々の記録ハ五個の二摺なる大冊に充  
 満し氏ハトーマス、アグイナスの如き大部の記者にわらずと  
 雖ども其書亦弘布したり其風体ハポルティルの書物の如く  
 明亮なり  
 其体軀の薄弱なるを思へバカルピンの動作ハ非常なり無  
 數の通信の爲メ牧會の動作論說文章の爲メ註解及役人の勤の爲  
 各事に時間を求め出す爲メ氏ハ非常なる強壯の人にてハ決  
 してなかりき然れども凡のものハ彼どの嘗て同一の時間に  
 成功せず氏ハ毎日間暇なく隔週間に説教し教會裁判所及道  
 徳上の集會に出席し氏ハ其時代の廣大なる事務の爲に己を  
 利益しキリスト教國の凡ての部分に書簡を出送りたり  
 ルーテルに次で其時代の數多の人あるも莫大の勢力を以て

ナル行

宣教上の總督として統治しながらカルビンの貧困にあるを以て満足とし金銭及凡ての賞讃及褒美を輕蔑したり然れども眞の同様なることの軍備ある兵營が成功したる大將に於けるが如く金銭の妨害なりと觀察したることなり氏の其内に盡きざる富を有したることを感ぜながら一年に五十弗の僅少の月給を以て決して貧困なりと智覺せず此故に氏の靜肅に又自然に運命及生産の禍災の嫉妬なく其同僚同等なるが如き世界の大人の間にも其坐位を占めたり氏のリグラテスがアテンスの貴族の間を蹀躞にて歩行したる時の如く又ベセルが荒野に退隱したる時の如く金銭及奢侈に於けるも之と同様なり氏の過度の苦樂を心事より洩さず僅く笑ひ歡喜あるも之に注意せず諸遊戯及遊獵を知らず氏の稀に小兒

と遊び又婦人と談話することの稀なり然れども氏の虛忘なくして人を愛し外部の憂愁なくして朋友の死を煩慮せり氏の人間の薄弱なるが爲に之を寛容することをせず而して懇親ならず愉快ならず氏の妻を求めたるも是己の辛苦をば彼に由りて休めんとするが如くなる感情の交親の爲に非ず其完全を分配する爲にも非ず只家裡を注意せしむる爲になしたるなり氏のルイテルの如く音樂詠詩を好まず氏の美術に其味覺を有せず氏の己の朋友及同輩の中に詩人及美術家を有せず氏のアルプスの氷原を見るの外に其書窓よりして四隣を眺望することせず然れども其高大なることの爲に働かざるゝことなき様に見ゆ氏の萬有と美術の光榮に騒かされず然れども抽象的思想及嚴格なる實地上の義務に其

心を委ぬ氏の單純真正精密なる言語を節用して尙も嘲弄せず譏刺せず大言せず氏の勇辨術の普通なる意志に属する能辨なることよりの遙なりと云べく言語及節句の聲響及口才の方術を輕蔑視したり氏の情性に訴ふるよりも層る理性に訴へ想像に訴ふるよりも層る良心に訴へたり

温和を言へバカルピンの亦不寛容なり氏の朋友の一人たるカスチンの氏が預定の教理を攻撃したるが爲に全セチバに擯斥せられ彼の眞實なる飢饉に迫りて死するに至りたる程に迫害せられたり共和政府の船將なるパーリンの婚姻席に於て舞踏したる爲に獄舎に投せられたり卓越したる醫者ボルセツクの預定の教理に敵したるが爲に無期禁錮の宣告を受けグレットの輕率に宗教の規則を談りたる爲に斬首せら

れセルピトスの道德あり學術あり正義ある人なりと雖ども熱火より逃ること能はず若し彼の其熱火が其肉体を亡ぼさるゝ時は永遠なる神の子イエスよと云ふ代りに神の永遠なる子イエスよ我を憫み給へと云ふんと欲せば彼の惠まれたるなりカルピンの彼が根原の眞理を否拒したる如く認可されたる眞理より論理上の推理を承諾することを厭ふたるものには嚴重なり然れども寛容てふことゝ當時氏にありての甚だ稀なることにて氏も其外に出でず氏の嘗て神の愛よりも怒を含む神の公義に属する處の者の如き切要なる點に於ての中世紀の思想の外にあらす氏の中世紀も余り近く生活したれバトーマス、アグイナスの人間を奴隸にしたる處の思想より自由にせらるゝに都合宜しからず氏の瑣々たる快

樂と賤劣なる職務と共に甚だ僅少の忍性を有したり氏の宣  
 教の職に大なる品格を歸して凡て其公職中に禮式禮法の嚴  
 格なる範例を置きたり氏の早き傳道上の神學者の符合なり  
 古き「ヒュリタン」の嚴重及狹溢及信賴に誠實なることの師父  
 なり氏の真正の瑕瑾の極所に突入する徳性より生れ出づる  
 ものなり我等の時代に於ていかに人々の旅行の伴侶との選  
 ばれず吾人の却て其人の家に於て基督降誕祭を守るを願ふ  
 たり氏の餘念なき嚴重の恐らく其敵に由りて増加せられ而  
 して吾人が云へば寒冷なりと云ふべき即ち毫も激動せざる  
 性質より生出し中世紀の隱者が示したる處の嚴重なる神學  
 より發出せり僅の者の今彼等の感動したるよりも多くの氏  
 が教理の嚴重なることを承諾し其神學上の推理の或者を承

氏が最大勢力

諾することよ偏きたり  
 余のカルビンの其國民の心中に住したるか又其國民の氏の  
 紀念の爲に石碑を建てたるか其何れなるかを疑ふ也吾人の  
 時代に於てい氏が肖像のゼンバ中のロッセーに建てられた  
 り然れどもカルビンの儀式もなくして非常なる簡易を以て  
 埋葬せられたり氏の實は榮譽名聲に毫も注意せざる偉丈  
 夫なり見ざる王に獻身するとの精神に吸収せられ已が能  
 力を演習すると同様ならず只此人間の尊榮を風が吹き散す  
 が如くなす處の神の全能力に派遣せられたる使者なること  
 を深く感じたり表面に顯れたる氏の瑕瑾の大黨派に承諾  
 せられたる偶像及神托を有する巫女の如くされしことなり  
 而して之が爲に其時代及后世に氏の才幹を踏附けたり然れ

ども「プロスピテリアン」が開化の爲に成遂げたる總体の氏が名譽の分配に預らざるを得ず「ビュリータン」が此國の國民の大部分に與へたる基礎の總体の氏が定例より默示を得たることを云認わさるべからず此認識上の學識及神學上の尋問及政治的の智慧の大君たることの縦合人民の多額利益せずとも高尚の性格よりせば永久に尊敬せらるべし數多の大人及善人が氏の性格及其教系か何れかの中を誤解せば如何に愉快の愛情及有形の時代に次の約束を以て此世界の榮光に結合することとを尋ね全情全感を持たざる時代にある大なる智性上の理論家及教系組織家の外多く氏を嘆美すべきか其深奥なる靈魂上の生活其神と玄奥なる交親其基督教々理の辨證の爲にする狭く如き熱心其高尚なる犧牲其聖き聽從大原因に

聖められたるこそが如何に價値あるべきか誰も其時の歴史及氏を圍める情態及氏の戦を願ふたる敵等を知ること能はざる處のカルピンを批判すること能はず人誰も優にして界限ありとなすべく感せざる其性格と使節とを知ること能はず宗教上の信仰の肯定すべき教系の荒暴中の錨と約束及希望の星とに於ける如く神の默示なりたる聖經の本文の主權に基きたり

初終に望み氏の其性格冷淡不懇親及不活潑なること神學者として氏の明白に監定よ其遙なる論理上の順序に迄も其演繹法を推及したることのカルピンの顔面を如何に損したりとするか氏のクリソストムより酷ならずセルよりも穩者ならず其性質に於てミカエル、アングルよりの嚴酷ならず又

バスカルクロンウエルウイリアム、セイレントより不  
 親なりとせず却て吾人の其行為の廣大なる性格の高尙なる  
 品位中に其不完全なりとの視覺を失ふなり氏の敵者に  
 酷なれども其朋友に親切なりき而して其五十三才の時氏の  
 薄弱なる身体に其實際の労働の爲に疲勞し氏の死の手が己  
 の上にあることを知り其朋友と改革の爲に共に働きたる人  
 其最後の教訓を授けられ基督學者の温和を以て其最後の願  
 望を顯はされられたるセチバの判官及役人などを一處に集  
 一涕泣と哽咽と氣息を殺したる呻聲の間に氏の靜然として  
 其近かんとする死亡を語り其懇篤なる祝禱をなす其處に在  
 る者と己の有様をばキリストに托し希望したるより長く  
 躊躇して氏の信用し嘆美するヒリザ氏の手臂中に一千五百

氏ノ榮  
 久ノ譽

六十四年五月廿七日信者たる信仰の高尙なる勝利に於て永  
 眠せり時に日没の光線の如く氏の賤少なる勉強室をば其榮  
 光と其靈性上の盛譽とを以て光澤を添ぬ  
 嘗てカルビンに於て嘲笑すへき事あるを知るの人あること  
 なしと云ふべくして氏こそ普通の標準を以て計るべからず  
 氏の普通に神學世界の大きな光と仰かる吾其卓越したる才  
 能其無双の労働無比の勢力其無汚無點の道德其高尙なる潔  
 義廣大なる靈魂を記憶したるときに凡ての饒舌なる批評  
 の下賤卑劣なることを知る氏の永久の恩惠者と列して其不  
 完全の爲に或辨証に就て大部分中の一小部分を要するのみ  
 其時氏及后世氏が意見を踏附けたる人と雖ども只に氏を眞  
 正なる非常の才幹ある人なりとして尊敬することを得べし

詳細にして只快樂を尋ねる種属の冷淡なる理性の本体に誘引せられず而して之が爲に高價なる紀念碑を建設せず然れども氏の勳作の近世に知られたる基督教熱心家高尙なる階級の歴史家及人間思想の變化に關せず歐羅巴亞米利加に於て基督教理の高大なる思想家適當したる説明者が尙屈指すべき神學上の教系の基礎家として存するなり三百年間「ビュリタンス」の靈性上の師父たりしこと能く氏が道徳智性の卓越なる証據を表したりと云ふべし而して近世の開化を示したる大運動の或者と氏が名を繋合すべし太平洋の海岸なる「フレマス、ロック」よりして吾人の氏が嘗て「プロテスタント」教會の大博士と敬はれたる程に尙氏が驚愕すべき才幹の遺跡及其人心及基督教神學の諸學校の上に尙驚く

べき勢力を見聞することを得るなり

加流敏言行錄終



版權登錄

明治廿二年六月十七日印刷  
明治廿二年六月十九日出版

譯者

尾島眞治  
靜岡縣陵東郡御殿  
場二百十五番地

發行者

岩藤錠太郎  
神田區錦町壹丁目  
拾一番地

印刷者

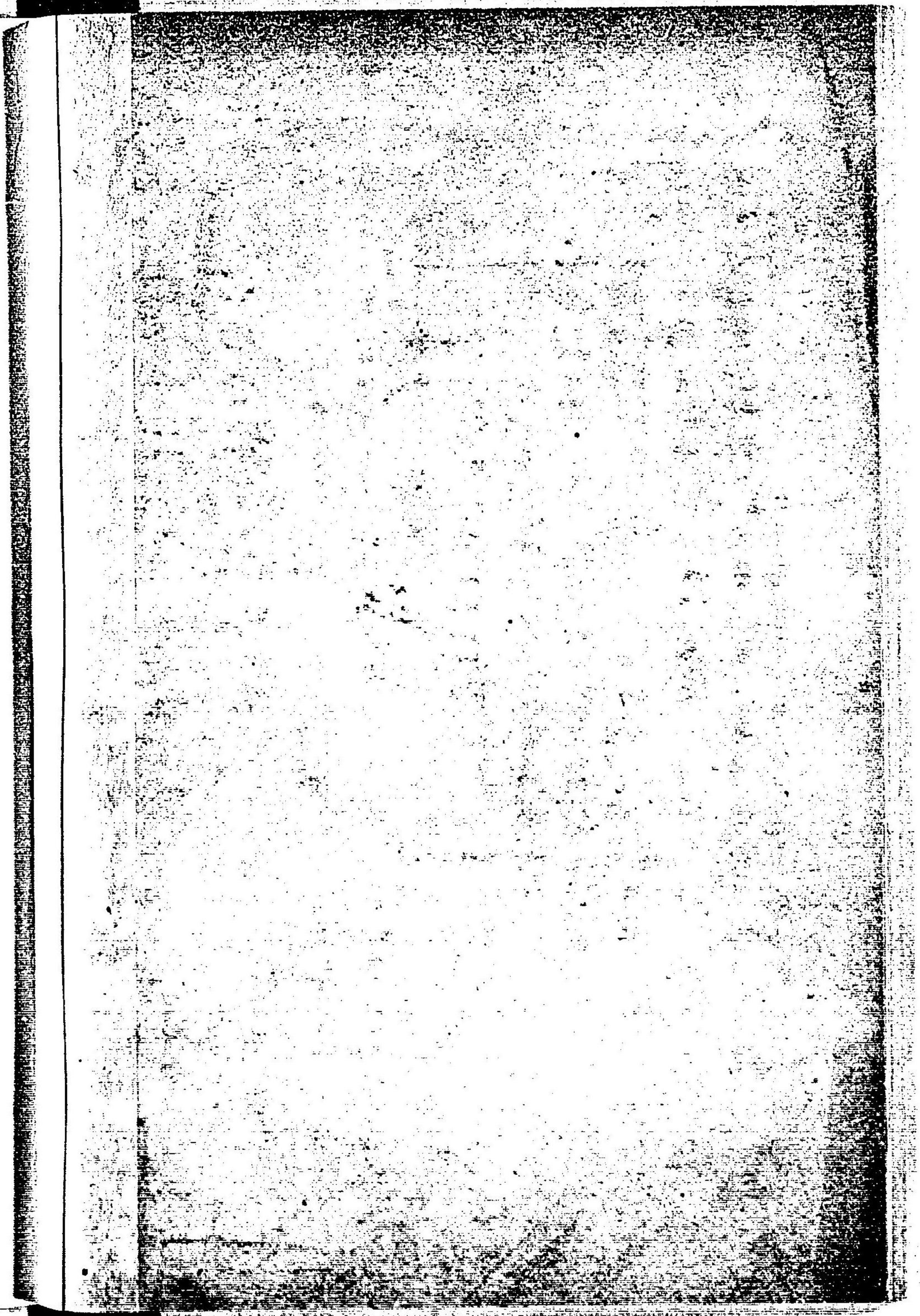
中尾默次  
京橋區山下町廿二  
番地桑原活版所

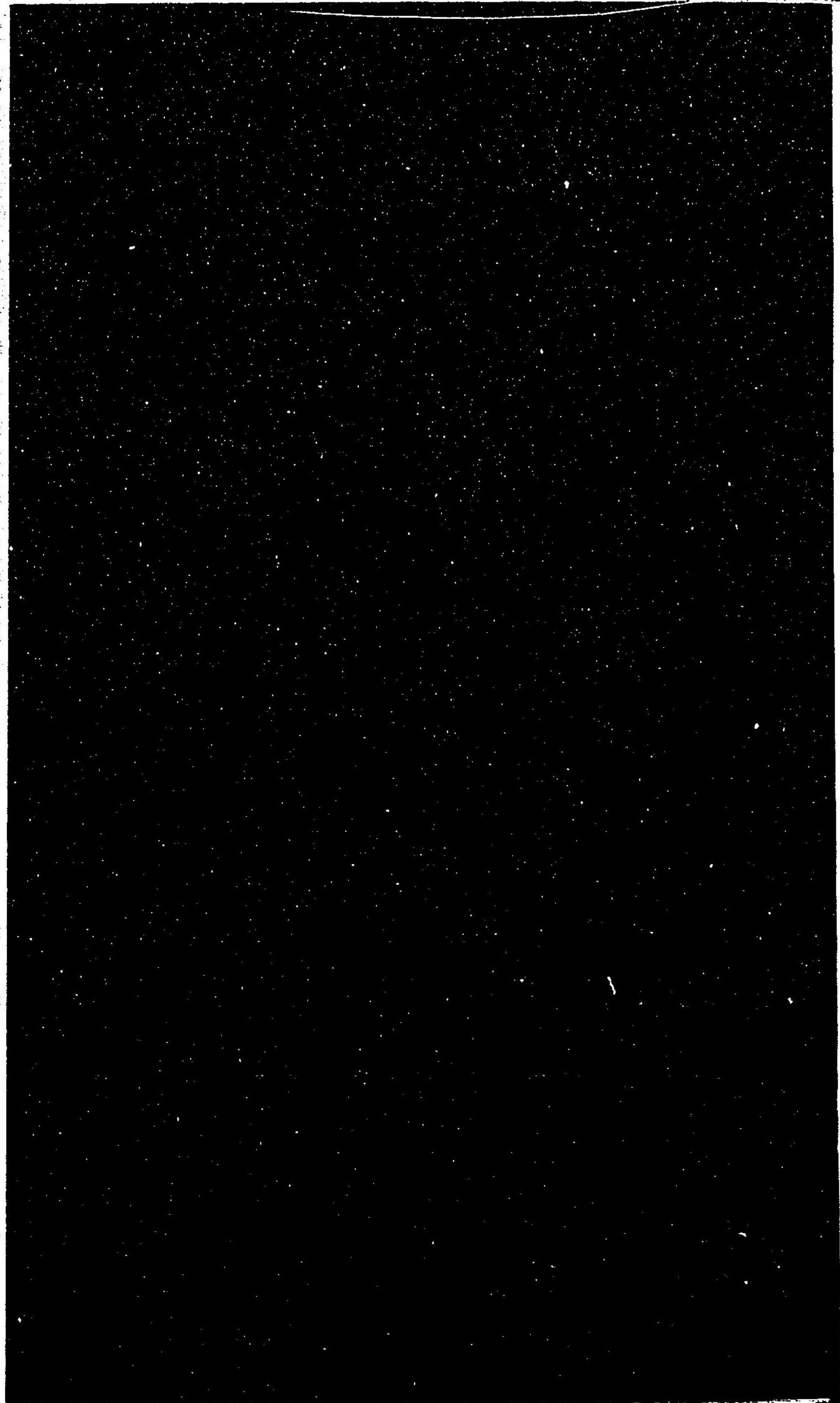
發行所

十字屋  
神田區錦町壹丁目  
拾一番地

版權  
所有









特 18

166

加流敏言行録

国立国会図書館

020350-000-4

特18-166

かるびん言行録(教法改革)

ジョン・ロード/著

M22

ABI-0156

